

出穂期に合わせた適期収穫と、ていねいな乾燥・調製で魚沼米の収量・品質を確保！

今年のコシヒカリは、田植え時期や生育状況等により、これまでになく出穂期のほ場間差が大きいため、ほ場ごとの出穂期を再確認し、適期収穫につとめましょう！

1 ほ場ごとに出穂期を把握しましょう

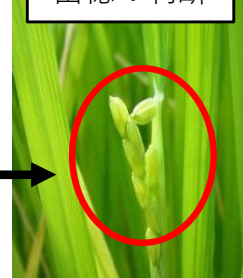
- コシヒカリの出穂期は、これまでになく差が大きくなっています。適期収穫のため、ほ場ごとに※出穂期を的確に把握しましょう。

※ 【出穂期】 茎の40～50%が出穂した日。



穂の先端が見えたら出穂です
こうした茎が40～50%見られた時が出穂期です

出穂の判断



2 出穂期25日後までは飽水管理を継続

- 出穂期25日後（可能な場合は30日後）までは飽水管理を継続し、稲体の活力を維持し、収量・品質を確保しましょう。
- 異常高温やフェーン等による高温・乾燥が予想される場合は、事前にかん水（走水）しましょう。

早期落水は下葉枯れ上がりや倒伏を助長します



3 出穂期からの積算気温を参考に早めの作業計画を！

- 7月に出穂したコシヒカリは、例年より収穫時期が大幅に早くなるので、収穫適期を把握し、刈遅れないよう注意しましょう。
- 刈遅れを防ぐため、下表の収穫適期予想日が収穫のピークとなるよう、早めの作業計画を立てましょう。

出穂後積算気温のめやす

こしいぶき：975℃ コシヒカリ：1000℃

刈取適期予想は毎週水曜日に普及センターHP、JA魚沼LINEで更新中！
裏面QRコードから確認できます。

【表】 積算気温による収穫適期予想(8月19日現在)

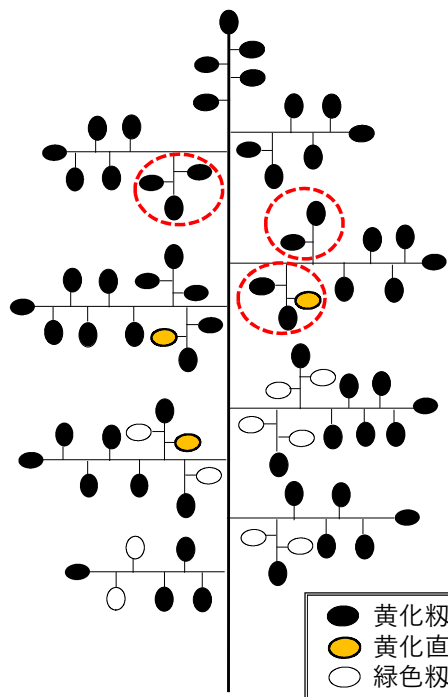
品 種 (地 域)	出穂期	収穫適期予想日
こしいぶき (平坦地)	7月21日	8月28日
コシヒカリ (平坦地)	7月25日	9月2日
	7月31日	9月8日
	8月6日	9月15日
	8月27日	9月6日
コシヒカリ (山間地)	8月2日	9月13日
	8月8日	9月20日

※ 平坦地は小出アメダス、山間地は守門アメダスの日平均気温を使用して算出

※ 8月18日まで本年値、8月19日～9月6日まではメッシュ農業データの予測値、以降は過去10年間のアメダスの平均値を使用

4 最終的には籾の黄化率を確認して収穫

収穫適期は、茎葉の色だけで判断せず、籾の黄化率で判断しましょう。



積算気温による収穫適期予想日より早めに
ほ場全体を観察し、籾の黄化率が85～90%程度
になった時期に収穫をしましょう。

※図中の点線内（上位3～4本目の1次枝梗
に着生する2次枝梗籾）が黄化した時が
収穫適期です。

※ほ場内の平均的な穂を10穂程度調査し、8割以上
の穂が図のような黄化率であれば刈取適期と判断
します。

左図 黄化籾率85～90%の状況
（富山県水稻栽培指針から引用、コシヒカリ）

5 胴割粒の発生を防ぐため、急激な乾燥は避けましょう

- 1時間あたりの乾燥水分が0.8%を超えると、胴割粒の発生が多くなるため、急激な乾燥は避けましょう。
- 収穫直前のフェーンなどで籾の水分が急激に低下すると、さらに胴割粒が発生しやすくなります。乾燥機の送風温度を低めに設定し、胴割粒の発生を防止しましょう
- 張り込み時の籾水分が既に18%程度まで低下している場合は、軽く通風乾燥したあと、夜間まで貯留して水分ムラを解消させてから加温乾燥しましょう。
- 籾の水分が高い場合や、ばらつきがある場合は、乾燥機の2段乾燥機能や、食味乾燥機能を有効に活用しましょう。

6 適正な流量で選別・調製し、高品質米に仕上げましょう

- 乾燥直後の籾は、水分のばらつきが大きいので籾すりまで間隔を空け、籾の温度が常温近くまで下がってから籾すりをしましょう。
- 籾すり機のゴムロールの間隔を調節し、砕粒・肌ずれの発生や、籾の混入を防止しましょう。
- 1.9mm以上のふるい目を使用し、適正な流量で選別を行いましょう。

【QRコードを読み取り稲作情報を確認しよう】

JA魚沼 北魚沼地区
営農情報（LINE）
はこちら→



魚沼農業普及指導
センターHP稲作情報
はこちら→



お問い合わせ先

J A 魚沼北魚沼基幹営農センター
025-793-1770
魚沼農業普及指導センター
025-792-1309

農作業事故に気を付けましょう。ゆとりある作業計画を立て、点検時はエンジン停止